

自 己 評 価 表

教育方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	「学校力」の強化と「人間力」の育成 <small>えがお まなびや</small> ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着と進路実現	「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。	A	アンケートでは生徒の90%が「分かる授業」になるよう教員が工夫していると感じている。	基礎学力の定着という点で課題が残っているため、電子黒板等の教育機器を活用したり、アクティブ・ラーニングの手法をさらに研究したりして生徒への興味付けをしていきたい。
		学習習慣の定着を目指し、学年＋1時間以上の1日平均家庭学習時間を確保させる指導を行う。	C	1学年が92.2分、2学年が60.3分、3学年が134.8分で全学年で目標達成ができなかった。ただし、全校総平均では、前年度より16.0分伸びている。	学習習慣が身に付いていない生徒が多いため、適切な課題を出したり、家庭学習時間調査票を活用したりして入学時から家庭学習習慣を身に付けさせたい。
		国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。	B	国立大学A〇入試、高等看護学校の公募推薦に合格者を出すことができた。	進路課、学年、教科の連携を密にして、個別指導を更に充実させる。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。	A	事業所、公務員ともに希望者全員が内定・合格することができた。	今後、厳しくなることを見据えて、基礎学力向上、出席率向上を図る。
生徒指導・安全教育	基本的生活習慣の確立と安全意識の育成	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率97%以上を維持する。	C	昨年1月末現在で98.5%であったが、今年度は97.3%で欠席は増加傾向にある。特に1,2年生で多い。不登校傾向、精神的に課題を抱えている生徒が増えている。	学年またはクラス単位で、「健康観察表」を効果的に活用して日頃からの健康管理に努めるとともに、学校を休まない雰囲気作りを構築していく。
		身だしなみ指導において、年間合格率85%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。	B	年間合格率は91%で、昨年の90%とほぼ変わらない。身だしなみへの意識は高いが、校則に反する指導件数は依然として例年と変わらない。	例年以上に1年生の指導に時間がかかった。学年集会、全校集会など様々な場面で繰り返し刺激を入れたい。
		コミュニケーション能力の向上に向け、あいさつのできる生徒100%を目指す。	B	授業、職員室の出入り、教職員、来校者へのあいさつはほぼ達成できている。生徒同士については89%の達成状況であったが、昨年度から5ポイント向上した。	・学校行事や特別活動が活発となり、生徒相互が親しくなる機会が増えたことが生徒間のあいさつが向上した理由であると考え。今後も様々な生活場面での指導だけでなく、学校行事等生徒の交流の場を設けていきたい。
		交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。	A	登下校指導、自転車点検指導やホームルーム活動における交通安全教育の実施等、交通事故防止に向けた取組を17件行った。	交通事故防止に向けた取組を継続実施していくとともに、ヘルメットの着用の一層の徹底を図り、交通マナーアップに向けた啓発活動に努めていく。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性・個性の伸長	豊かな人間性・思いやりの心の育成と個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの図書貸出冊数を平均3冊以上にする。	D	朝読書の実施日数を増加した。昨年度:年間20日、今年度:年間100日以上。図書突合作業を行いながら、図書館の一部を利用・貸出したので図書貸出冊数は伸びた。	図書突合作業が完了し、通常の図書館運営に戻るので、従来までの数値目標を達成したい。
		充実した学校生活を送らせるために、部活動加入率を90%以上とし、県総体出場生徒数40名以上を目指す。	A	部活動加入率は94.6%で目標を達成することができた。県総体出場生徒数も47名で目標を達しすることができた。	現1年生の運動部の加入率が低いのが気掛かりである。来年度は新1年生に期待したい。
		各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。	B	今年度もボランティアに積極的に参加している生徒が多かった。地域に非常に貢献できている。	ボランティアに参加した回数を把握するようにしてはどうか考えている。生徒会と連携していきたい。
		相手を尊重する、いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行う。	B	人権教育課長の講話、講演会、HR活動等を通して、自己肯定感を育む取組をした。	より一層自己肯定感を育めるように、講話や取組の内容等を工夫する。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携と魅力ある学校づくり	P T A総会（公開授業、講演会を含む）への出席率50%以上を目指す。	D	平日開催ということもあり、授業参観も含めて約17%の出席状況である。	授業参観も1時間よりは2時間の方が出席も上がると思うので、次年度に向けて継続したい。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間15日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る。	B	保護者、地域に対し授業公開(14日)、出前授業(1日)を行い、生徒の活動を参観していただいた。	社会に開かれた教育課程を実現するために、学校を保護者・地域に開放し、学校教育への理解と協力を図りたい。
		学校公式ホームページの内容を毎日更新するなど、学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信する。	A	ログ数を開校日で割った数字が177%で、開校日以外も内容を更新する等ホームページを活用して情報発信ができた。	コースの説明や学校の教育内容等中学生にも分かりやすく提示する工夫が必要である。写真等の更新が必要な箇所もあるので、ホームページの更新に伴い改善していきたい。
		地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上確保するなど、連携に努める。	B	地元保育園(3件)・小学校(4件)・中学校等(6件)との交流事業を行った。	地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上確保するなど、連携に努めたい。
現職教育	教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が3年間に1回は教科の研究授業を実施する。	B	教科等の研究授業を10回実施しワークシート方式(マトリックス法)を用いて深い授業研究を行った。	各教員が3年間に1回は研究授業を実施し、教職員の授業力の向上を図りたい。
		各種研修機会を積極的に活用し、校外の研修会に各教職員1回以上参加する。	A	本校の場合、教員数が少なく、複数回の研修機会をもつことが可能である。教員も積極的に参加し、自己研鑽に努めている。	数値目標が低かったので、適切な回数を設定したい。旅費等の制約もあるが、教育を取り巻く環境の大きな変化に対応するためにも今後とも研修機会を確保していきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。